

令和4年度 松戸市協働のまちづくり協議会 第3回 会議録

(令和5年度実施分 協働事業・市民活動助成事業プレゼンテーション)

【日 時】令和4年10月23日(日) 9:30~16:00

【場 所】議会棟3階特別委員会室

【出席者】犬塚 裕雅会長、杉浦 利彦副会長、坂野 喜隆委員、神谷 明宏委員、
牧野 昌子委員、小川 早苗委員、佐藤 秀樹委員、齊藤 典子委員、
上野 真一委員

【傍聴者】 0名

1 委員参集

- ・協働事業提案制度の申請事業と利害関係のある委員を確認した。
- ・市民活動助成制度の申請事業と利害関係のある委員を確認した。

2 開会

3 協働のまちづくり協議会委員紹介

4 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

5 令和5年度実施分協働事業・市民活動助成事業プレゼンテーション

【協働事業】

(1)

事業名 : 地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業

団体名 : まつどでつながるプロジェクト運営協議会

担当課 : 子ども政策課

委員 : 円卓会議は私達も千葉で何年か前にやったことがありとても充実していると感じる。市民サポーター養成講座の地域の中でどのような活動、役割となるのか。子育て支援の現場とのマッチングと書いてあるがその具体的な所を教えてほしい。

団体 : 松戸市では乳児検診や親子DE広場など乳幼児親子が集う色々な取り組みがある。地域に貢献したいと感じている人が多数いると聞いているが、なかなかきっかけづくりができないということなので講座を聞いてもらってステップアップして乳児検診にきた方の自転車を直すなどのそういった場から始められたらと考えている。

会長 : 子ども政策課の方で市民サポーターが活躍できる場を行政として交渉していくという理解でよいか。

担当課 : 行政としてもボランティアが必要な場があればお声かけすることや、募集することを考えている。確実にここで活躍してもらい、というわけではない。また当課の別事業で子育て支援施策をプロモーションしているがうまく伝わっていないなどがあり、例えば制作している販促物などを市民サポーター

一へお渡しして、それをきっかけに地域の方へお声かけしてもらうなどして地域の温かい目を増やしたい。

委員：養成講座が終わっても公的な資格ではないと思うが、せっかくやる気で参加したボランティアが、オープンな形で活動ができるという状況を作っていないと結果として養成講座の成果が出ない可能性があり、危惧している。行政がそういうときに紹介するというやり方では難しい。過去の他の講座を見ても明らかである。もう少し明確にボランティアが活動できる場を団体でしっかり連携して道筋を作っていくことが大きな課題と思うがどう考えているか。

団体：先ほどの説明ではおやこ DE 広場だけを伝えてしまったが、市内で子育てにかかわる民間機関もあるので、そういったところに円卓会議で連携を取ったり、声をかけていきたい。私達も課題と認識している。

委員：円卓会議は地域の方と連携との話だが、地域という話なので、子ども政策課が市民自治課などほかの地域に関する担当課とどれだけ連携をとれるかを課題として克服することを考えていただきたい。また、なぜ、ラウンドテーブルのようなネットワーク型が優れているのか考えると、納税者に対し説明する上で、数値化する必要がある、数値化しやすいところである。ソーシャルキャピタルの指数を出したほうが、何が何だかよくわからないものは説明責任に欠けてしまうため、確保して欲しい。

委員：先日初めて円卓会議をした要旨を教えて欲しい。

団体：今期は乳児期、幼児期、青年期と分けて実施できた。分けたことでそれぞれの課題感がより深く話し合えた。今までネットワークのようなものをつくる時間がなかったが身近な課題を共有するという事で、会議終了後に名刺交換するなどそういったところのつながりができたと感じた。

委員：実際に課題を抱えている市民へのアプローチはどのように進めようと考えているか。

団体：養成講座はまず地域の子育て状況を知っていただいて、これから何かやりたいという方に向けて取り組みたい。

(2)

事業名：「まつどの介護」プロモーション事業

団体名：特定非営利活動法人 SmileResource (スマイルリソース)

担当課：介護保険課

委員：2点ある。1点目は動画をつくるのがメインの事業だが、動画をどう見せるかが一番重要になってくる。その辺の工夫があれば教えて欲しい。もう一点は、県立松戸向陽高校の学生はボランティアに参加するという授業の一

環なのか、あるいは学外で参加しているのか教えてほしい。

団体：高校生の活動の時間については、基本的にボランティアとして活動してもらっているので、放課後または休日に参加してもらっている。

担当課：どう見せるかの工夫については、2点取り組んでいる。動画サイトの入り口を市のホームページ以外にも複数入り口を用意した。県立松戸向陽高校HPのトップ画面のほか地域包括支援センターの動画については、地域包括支援センター担当課のHPからリンクを張れるように担当課に交渉した。また、Facebook、Twitterなどによる発信を始めた。

委員：若い人への発信はすごく順調とを感じるが、どこでもいつでも介護情報を見ることができるという視点について事業化はどうしているか、今後どうするかについて教えて欲しい。また、チラシ作成と配布について、一般企業にどういう目的でどういう内容を配布したいのか。

団体：まずどのように活動を一般に伝えるかは大きな課題と認識している。1年目は介護支援専門員に介護を必要とされている方へお配りくださいとお願いして配布した。2年目は介護を元に休職する方や介護の相談が一般企業では人事部門へあると聞くので、介護にはこういったサービスや動画があるよ、ということを手紙に添えて周知した。チラシはNHKの介護フォーラムであったり、イベントに参加させてもらって配ったり、去年は別の事業だが中学校の生徒の前で話す機会がありそこで話すなど、この活動を少しずつ広げる取り組みをしている。

担当課：介護保険課には介護保険についてのパートナー講座の依頼を年間20本くらい受けている。そういったところで、動画も併せて紹介しており、一番みなさんが気になるどうやったら申し込めるかなどの動画を見せながら周知し評価ももらっている。

委員：介護制度の周知に重きを置いていると思うが、これからの方向性を教えてほしい。特に予防の点はどういったことを考えてこれから発信されるのか。制度の周知がメインと思ったが、どうか。2点目は、離職率を減らすといっても、そもそも福祉職の制度の在り方が変わらないと無理だと思う。どんなに人材を集めても離職率が高いといっても当たり前で、公務員の離職率が低いとはいえ、福祉関連は離職も多いと聞く。離職率を減らせる対策は考えているか。

担当課：介護予防の発信については、来年度は介護予防を具体的に取り上げたいと考えている。パートナー講座ではよく家族介護を特に取り上げていて、どんな予防をしたらいいかが非常に関心が高い。気軽に情報発信をしてくれないかという話もある。2点目の離職率については、最近県では仕事の分化という話がでてきている。介護職員がフルタイムで働くのではなく、ドライバ

- 一、事務など内容別に仕事を分けるというもの。地域の方が介護の仕事に興味をもって身近に感じてもらえる、そういったものを動画で取り上げたい。
- 委員：介護離職者の意味は、家庭の中で介護をしなければならなくて仕事を辞めざるを得ない人がいるで合っているか？
- 団体：合っている。
- 委員：あと、制度の活用を増進させるためにも、介護職が厚くならないと制度も回らないし、介護の担い手を増やすこともこの事業の目的と感じているが合っているか？
- 団体：おっしゃるとおり。制度をわかりやすく見てもらって使ってみようと思ってもらうことも大事だが、介護に興味や憧れがある学生や、一般企業に就職したけれども介護職をやってみたいと感じる人に対しても魅力ある仕事であることを伝えたいと考えている。

(3)

事業名：まつど de SDG s の輪を広げようプロジェクト事業

団体名：まつど地域活躍塾つながりの会

担当課：政策推進課 市政総合研究室

- 委員：SDG s はものすごく幅広いと思うが、計画の焦点化はどうか。具体的に誰を対象としているのか。例えば子ども向けに配ると一般向けに配るのでは明らかに違うと思う。団体をお願いするのはたやすいが、具現化していないと団体も困ってしまう。市としてのSDG s の明確なプランがあるのか。市としての具体的なプランがあるか担当課に聞きたい。
- 団体：団体として考えている対象は特に絞っておらず、地域の町会自治会とか小さな団体にまず普及させたいと考えている。
- 担当課：地域というが、SDG s は非常に広範囲に及ぶため巷に広まっている啓発本は世界的なものになりがちである。松戸の地域情報をもとにSDG s を落とし込んだSDG s 教材を開発していると団体から伺っているため、松戸に根差した冊子を現状見たことが無く、ローカルに落とし込んで市民がどうやっていけるかというところに一緒にやっていきたいと考えている。
- 委員：事例集を作っていくとのことだが、それをもとに学習会を実施するのに150部作成で足りるのか。活用先をどうしていくのか教えてほしい。
- 団体：確かに部数としては少ないと感じる。ただ、いきなり何千部ではなく、試行してこの内容でできそうだな、と感じればもっと刷りたいと思っている。まずはこれでいいのかどうか確認しながらと考え、150部とした。
- 担当課：町会、自治会といったところから始めるが、話を伺いつつSDG s は2030年までの目標のため、来年度は150部であってもその後はもっと増やす

ことも検討したい。

委員：松戸らしさを出していきたいとのことだが、今考えているSDGsの松戸らしさはどのようなものか。また対象者は町会自治会とのことだが、それが松戸らしさか？

団体：松戸らしさのはっきりとした焦点はまだ絞られていないが、松戸でいろいろな団体が活動しているという現状があり、そういう団体の特徴を捉えたものを作っていきたい。大きくは打ち出されていないが、観光とか里山、災害、いろいろな松戸だなどと思う事例があると思う。そういうものを拾い上げると、松戸らしさになるといいなとイメージしている。

委員：結論から言うと明確性が欠けている。市の協働事業という観点からすると、アウトプット、アウトカムが見えてこない。SDGsはかなり幅広いのである程度明確性を高めないと、実際に市民に対し説明できない場面が出てくるし、評価が難しいと思う。松戸市はかなり各施策がしっかりしていると感じている。その上で、この取り組みに意味があるのかと聞かれたときにどう返すかが大事である。なぜSDGsが必要なのか理由付けがもっと明確ないと事業費を要求するのは厳しいのではと思う。これまでやってこられた市の事業と結び付けた松戸の在り方について現状も含めて考えてほしいと思う。

担当課：そここのところを一番課題と感じている。今回の事業ではアクションプランコンテストを集大成に認識している。啓発冊子やネットワーク構築を通じて市民トータルでSDGsに対してこういったことをやっていきたいと考えることを実現につなげるところまでやっていけたらいいなと思っている。

(4)

事業名：料理教室を通じた父親の意識改革事業

団体名：MAISON IZARRA Oyatsu labo* Nature 1
(メゾン イザラ おやつラボ*テ ナチュレル)

担当課：男女共同参画課

委員：大変人気の講座と感じるが、市民会館にずっと場所が固定しているということでリピーターがいるのではと心配している。きっかけづくりなのでいろんな方に参加してほしい。また、ワークショップで男女共同参画をアピールするとのことだが講師の方はどのような方を想定されているか。そして負担金のほとんどが食材費となっている。来年度以降は負担金がないため、参加費を徴収して継続されると思うが、どう考えているか。

担当課：リピーターは1、2割の方が応募いただいているが、先着順で定員の1、2割くらいなら受けてもよいと考えている。これまで10組でやっていた

が、きっかけづくりの拡大を目指して来年度は15組程度を考えている。市民会館に調理台が10台あるため、コロナが落ち着けば調理台1台につき1,2組で配置したい。講師は市内でパパサークルを運営している方に来てもらっているが、今年は別のパパサークルの代表にも来ていただいたり試行を拡げている。

団体：材料費の有料化については、来年度は様子を見ながら今までと同様に実施だが、別に団体として独自に実施するイベントでは材料費をいただく内容を考えている。

担当課：有料化についてのアンケートを今年から取ってみている。今年度開催を重ねていく中で、どの程度負担できるかを伺っていく。市との協働なので材料費全額を取ることは考えていないが、一部いただく形を検討していく。

委員：コミュニケーションを重視しているとの内容が書かれているが、1～3年目それぞれでどういうところで工夫したのか、特に3年目はどんなところに焦点を当てていくのか明確に教えて欲しい。またどう取り組んだか課題や今後こうしていったほうが良いと感じたことや、コミュニケーションを活性化させるための課題など感じたことなどを教えてほしい。

担当課：1年目は手探り状態のワークショップで、統計資料などを使って硬めにやってみたが参加者が飽きてしまうこともあったため少しずつ改善を重ねている。いまは講師の方が話題を振りながら、子どもも含めて展開している。また、今年から交流会形式で講師対参加者ではなく2グループに分かれて、各グループに講師が入って行って話題を引き出すなどやってみている。子どもが飽きてしまうことがあったが交流会形式で子どもにも話題を振ることで子どもも交流会に参加している自覚を持ってもらえ、父親も話題に入りやすい。できる限り子どもも話の輪に入れるように、コミュニケーションを取ってもらっている。男性は職場で子どもの育児家事について話をする機会はありません。新鮮に感じる話も多くこういう機会も良いなという意見もいただいている。子どもも発言するような、子どもも含めて家事育児に参加することを意識してもらおうような話題を振ってみたりして取り組んでいる。

委員：父親の家事育児に参加してもらおうというのはとても助かると感じている。時代も変わっているので、手伝ってもらえたらありがたいしお互い気持ちよく過ごせてとてもいいことだと思う。参加費について、アンケートを取った結果はどうだったか。

担当課：前回の1回限りしかまだ結果が出ていないが、5～6割の方がわからない。1,000円以下なら払う、という答えだった。

委員：ぜひアンケートは続けてほしい。

委員：今後の継続を考えると食材の問題が一番大きいと思う。提案だけさせてほしい。南部市場では多くの食材を廃棄している。実際にそういったものをもたらえる可能性も高くなってきている。市場の意識も変わってきており、子ども食堂に渡すなども聞く。そういう努力はされているのか。松戸はリンゴやブルーベリーなど農場が多いがそこでも廃棄がある。そのあたりの開拓は試みているか。やっていないければ取り組んでみてはどうか。

団体：イベントとしては関わりがなかったが、まつど地域活躍塾つながりの会のつながりで、空いている農地を使った食材づくりに取り組んでいる方とつながっている。その関連で食を通じたSDGsのつながりでイベントをやってみようと話をしている。

(5)

事業名：日本語を母国語としない子どものための学習支援事業

団体名：認定NPO法人「外国人の子どものための勉強会」

担当課：国際推進課

委員：行政は日本で暮らそうとする外国人の親子に向けてPRし、団体との連携を図る橋渡しをしようと思うが、行っているか。また、定例的に行われる場所が重要だが、NPOに任せるだけでなく、行政で対応することもまず目指さなければならないと思う。100か国以上の外国人が住むことからそういったことは行政で検討できているか。

担当課：教育委員会の学務課、学習指導課とチラシの配布について協力いただいている。市民課でも転入時に配布をお願いしている。子どもについては個別に子ども部から連絡をもらおうと団体へつなぐなどして対応している。教室は、3教室のうち、1教室は課所有のものを使用してもらっている。2教室については団体で確保してもらっているが今後については協力できる場所がないか検討する。

委員：100か国から松戸市に来ていることに驚いた。この勉強会にはどの国からが多いのか。

団体：一番多いのは中国。市に居住する人数としても一番多い。最近ではネパールが多い。それからパキスタン、ベトナム。あとアフリカの方もいる。フィリピンもいるが、中国と比べて多いというほどではない。

会長：担当課へ質問。見方を変えれば外国由来の子どもや家庭に対する包括的相談支援体制というのが市として持っている中の1つの受け皿としてこの法人があると考えたが市の方針はどうか。

担当課：特に子どもを持つ家庭に限った相談窓口は設けていないが、総務省が行っているワンストップの外国人相談窓口を広報広聴課で設けている。生活全般

の相談窓口でもあるため、ここにもチラシを置かせてもらっている。詳しい話は当課を通して団体に対応をお願いしている。

会 長：市の持っている仕組みにこの団体の活動が相性よく組み込まれ連携がとれるとさらに効果が期待できると思ひ質問させてもらった。

委 員：人材育成の視点で、何か勉強会などどのように育成して活用しているのか。また今も人材育成を行っているのか、これからなのかそのあたりを教えてください。

団 体：実際入会してボランティア活動する方で多いのは、まず私たちの講座を聞いて興味を持ってもらったことや、ホームページを見て見学したい、というもの。実際の教室を見てもらっていいなと思った方には参加してもらっている。せっかく来てくださった方に対する人材育成面はある意味不足していると認識している。新たに新松戸教室を開設したときは、中野区で初級クラスを育成している方を講師として招き、その勉強会に参加した方に活動をお願いした。実際には、今の構成員ではボランティアとして週1回授業をこなすことで精いっぱいである。今後は計画している初級クラスは基本的知識がより必要なものであるため、スタッフの勉強会もぜひ取り組みたい。

(6)

事業名 : 町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業

団体名 : できる街プロジェクト

担当課 : 市民自治課

委 員：スタンバイ席にいたときに1つ前の発表を聴いたと思うが、動画が全部日本語である。常盤平などでは外国籍が増えていて困っていると聞く。特にごみ収集の場面でトラブルが多いと聞いている。字幕で例えば中国語など多国語、外国語での対応を考えているか。市も広報としてパンフレットなどに外国語を導入して町会への加入を働きかけているか。

団 体：考えたことはなかったが、とてもよい話を聞いたのでぜひやりたい。市も考えていなかったようなので来年度になるかもしれないが取り組みたい。

委 員：制作していて団体自身はヒアリングなどを通じて町会自治会の魅力はどんな魅力と感じるか。また市民からの感想や視聴コメントなどあれば教えてください。

団 体：SNSなどではすごくいいと聞く。松戸市だけではなく他の市でも転用できないかという話はもらっているが、市の予算で作っているため今のところ転用はさせない。自治会長の方達は、個人的な印象ですごくいい人だと感じる。青パトの取材をしたら本当にすごくいい方で、青パトを全て自費で賄っている方がいた。その方は知っている町の人のために活動していて感動し

た。直接お話が聞ける機会があれば一番いいが、できないと思うので漫画で伝えたい。また町会自治会の予算で防犯灯やごみ捨て場の整備などもしていることを伝えたい。

会 長：一次審査の付帯意見として、効果的なターゲットを明確にしてほしいという
ことに対し、どのように反映されているか確認したい。

担当課：町会自治会を知らなかった主人公が活動に参加していくストーリーにして
いて、ターゲットは転入者と市内在住の未加入単身世帯をターゲットにして
いる。同じような立場のじちまるが加入していくことで親しみを持って町会
自治会に対する心理的ハードルを下げて活動に関心を持ってもらいたいと考
えている。見ていない人に対しては、見る機会が得られるようにSNSのほか
手渡しで配布するチラシや、掲示板ポスターなどで周知を進めたい。

会 長：付帯意見は来年度に向けたものであったが、今年度分からすでに取り組ん
でいくということであるか。

担当課：少しずつやっていきたい。

委 員：町会自治会をすべて取材したと捉えていいのか、それとも地区割をして一
部の特徴で抽出したか。

団 体：自治会長の代表にお話しを伺った。昨年度は環境美化と防犯活動について
やりたかったため、その点で力を入れている町会自治会長を紹介してもら
い、取材した。来年度もその方向で取り組みたい。

委 員：実際の加入率の変動はどうか。上がったということであれば有効だと判断
できるかどうか。また、できれば各地区連の特色も動画で出してもらえたら
いいなと思う。

担当課：令和3年は67.21%、令和2年67.85%、令和元年69.4%と
減少しているが、松戸市に限らず全国的に減少している。

委 員：それであればこれだけやっているのに減少しているのではないかと指摘され
ないためにも何か理由をつけて実施してあげてほしい。

担当課：近隣市の中では松戸市は減少傾向が少ないほうである。決してこの事業が
無駄ということではない。

【市民活動助成事業】

(7)

事業名：高塚新田付近の多世代交流型居場所事業

団体名：梨っこ食堂

委 員：この食堂の運営に高齢者の関わりがあるのか。高齢者を意識しているよう
だが、どのような活躍をしているか。また、必要に応じて学習指導をするこ
とのだが、こういった方が担当するのか。

- 団体：メンバーに30代から70代がちょうど揃っている。料理についても我々が作れないものを教えてもらいながら子ども達と一緒に作っている。学習支援については、勉強を教えるというよりは、誰かがそばにいと、勉強を進められたりする。我々は学習塾ではないし、たまたま高塚新田に学習支援を中心とした別の子ども食堂が月2回実施されている。教えられないレベルはそちらにつなぐように連携する話も進めている。どちらかという、最初につまづいている子どもに対し、参加している中学生や構成員がそばにいて一緒に考えていくという形で考えている。
- 委員：調理実習がすごくいい。食堂でただ食べさせてあげるとかフードパントリーでお弁当をあげるだけでなく、自分で作れるような調理の仕方をみんなで学ぶということに希望を持った。
- 委員：目標と予算にあるチラシとパンフレットはどういう目的で印刷、配布するのか内容を含めて教えてほしい。
- 団体：まだまだ必要な人に支援が届いていないとしみじみ感じたことがあり、食べるものがないとはっきり外国人は言ってくれるが日本人は言えない状況になりがちである。友人に配ってもらうとか、なんとなく困ってそうな方、コロナで連絡が取れなくなった人に玄関先に届けたりそういう連携ができつつあるため、そういった深いところに入っていくためのチラシ作りで考えている。
- 委員：きめ細かな対応をしていると感じている。構成員8人でこの事業を展開するのはいろんな方との連携、巻き込みがあってできるものと考えているがどうか。また高塚新田の集会所に調理教室があったか。どこで実施するのか教えてほしい。調理実習の場合の検便検査など衛生面の対応も実施してほしい。
- 団体：高塚新田集会所は給湯室があり多少の調理はできるが、料理教室として市民センターのように器具が整っているわけではない。ただ、1階が梨の倉庫になっていて、防災教室としてホットプレートや卓上コンロなど防災用品を昨年色々揃えており、子ども達が緊急で自分たちで炊き出しができるようになるため、地域の高齢者と一緒に取り組めるよう毎回進めている。それを続けていきたいと考えている。検便検査はまつど子ども食堂に加入しておりその連携を活用したい。
- 委員：Jワールドのユーススペースが似ている。積極的に連携交流を取って欲しいがどうか。
- 団体：Jワールドもまつど子ども食堂の会に入っているため、連携できる状況にはある。定期的な集会在コロナで未実施になっており、今後何かあれば連携していきたい。
- 委員：今後の展望として学校に行きたくない子の学習支援の場所にしたいとのこ

とだが、展望はどうか。

- 団体：週1回じゃ少ないと子ども達から要望があり、毎日でもどこかに足を運びたいとの話がある。できればもっと実施したいが場所を用意するにも採算が合わないといけないことを子ども達に話している。どうやったら実現できるのかというところで過去に梨香台団地に場所を借りられそうな話があったが、工事が進まなかったり、団地だけではなく地域で用意したいこともあり別の場所を探しているところである。学校に行きづらい子と何かアクセサリを作ったり遊んでもらおう、となったところで、要介護の方にも来てもらって子どもに遊びを教えてもらったらその方にとってもリハビリ効果があった様子だった。理学療法士が悔しがっているほどである。フレイル予防につながってできていることがあったりするため、できるだけ積極的に実施回数を増やしていきたい。

(8)

事業名：漫画・アニメ・ライブ配信で松戸の魅力PR事業

団体名：超普通スタジオ

委員：情報収集は何で集めているか？SNSか？

団体：SNSや実際に市役所の方やお会いした人に松戸ってどういうイメージかという聞き込みはよくしている。

委員：観光協会から「まるま」という情報誌が出ている。聖徳大学の学生が取材して制作している。今の若い人にとっての魅力というのは、我々年寄りとは違うものを取材先で見つけてきているようである。アニメを見たが内容は一般的に松戸を紹介するものが取り上げられており、若者が飛びつく話題に欠けている。取材ソースをもう少し掘り下げて対応しないと新しい松戸の魅力は発信できないと思う。周りに果樹園が非常に多くあるのも松戸にしか撮れない特徴があると思う。こういったPRできるものがまだまだ潜在的にある。アニメという素材に頼るだけでは松戸の魅力は発信できないと思うがどう考えているのか。

団体：今すぐに、というところで考えると、来年度は学生の参加があるため学生から何が流行っているのか伺えると思う。あとはこれから団体としても取材をがんばりたい。

委員：誰に向けての発信なのか。松戸に住んでる方にこういう情報あるよという発信なのか、松戸以外の方にこんな素敵な街なんだよと発信するのかどちらか。

団体：一番は外に向けたほうが先と考えている。超普通都市というタイトルもそうだが、中の人を中心に狙うと内輪ネタで外から見ると面白くないと思われ

ることが多いと思う。外から松戸っておもしろいよね、と外から言ってもらえることで松戸に住んでいる人もそうなんだと思ってもらえると思う。

会長：参加型の体験イベントについて12人の参加者を最低見込んで予算も参加費を計上しているが、実際見込みとしてはどうか。改めて裏付けや見立てを教えてほしい。あと、自分が楽しむために消費する側の立ち位置とお金払って参加する側の立ち位置だと構えが変わってくると思うがどうか。

団体：見込みとしては別事業で似た内容を今年度実施しており、25名参加があったため参加見込みはあると思っている。実際今年度参加した学生で、泣いてしまうくらいすごいよかったと話す参加者がいた。実際のプロの現場と同じ仕様で収録できるというのも1つだが、その場で出会った参加者同士で終わった後にLINEを交換して友達になったりしていて、それが参加した人の経験対価として大きかったのではないかと思う。参加者の中で声優を目指してLIVE配信している参加者が絶賛してくれた。そういったプロを目指す参加者の満足度は高かったと思う。実際、今なりたい職業の上位が漫画家や声優のため、この体験を通して松戸を好きになってくれたり、満足度は得られるのではないかと期待している。

委員：予算についてスタジオ使用料は実際、具体的にどこを借りるのか。

団体：昨年度は県内スタジオだったがコロナで閉鎖してしまい都内で収録している。県内でできる場所があれば県内、学生も来てもらうのでできれば松戸で収録したい。

委員：東京かどこかというより、前に発表のあったできる街プロジェクトのスタジオ使用料と同額だったため、似たようなところを借りるのか。

団体：スタジオ使用料は一般的に同じ金額である。千葉県に都内と同じ規模のスタジオができたとしたも、おそらく都内と同じ値段になる。

委員：スーパーチャットとグッズについて具体的に教えてほしい。

団体：スーパーチャットはライブ配信のこと。自分の意見をより取り上げてほしいときに課金することにより参加者が発信できるシステム。グッズは受注生産できるクリエイター向けのグッズ制作会社ができたため、これまで制作したマツド伝説のイラストや声優のボイスを使って作りたいグッズを作れるため、今までの制作したものを活用してその収入で実際に団体だけで運営できるようにしたいと考え挑戦した。

会長：受注で制作するグッズとはクリアファイルやアクリルスタンドか？

団体：そのとおり、マグカップとか。

会長：制作個数が90個では足りないのでは？桁が違うと思う。

団体：がんばります。

(9)

事業名 : 冒険山開放に伴う見守り事業

団体名 : 冒険山開放委員会

委員 : 小学校ともからみがあると思うが、冒険山がコロナの影響で開放できていないことに対し、学校のほうから開放について何か取り組んでもらっていたりしているか？

団体 : 昨年から低学年の子どもたちに冒険山に登ったり下りたり冒険山に親しむ取り組みをしてくれている。今後も協力して冒険山に親しんでもらいたいと思っている。校長が変わったため今後の方針もまたこれからもある。

委員 : 計画で新たに大道芸人があるが、どのような内容で考えているか？

団体 : 地元で大道芸人のカヤさんという方が住んでいて、ジャグリングや風船などできる方で実際に地域のお祭りに来てもらっている。しかし、やっとうとみんなの手が止まってしまうくらい魅力的なので、凧揚げのところあたりで来てもらおうと考えている。

委員 : 今年の進捗状況はどうか？オンラインセミナーについて2人計画しているとあるが、テーマは何か？

団体 : ザリガニ釣り大会は根木内、大谷口、幸田、中金杉などから参加があり、参加地域の拡がりを感じた。これまでの活動で少しずつ認知度は上がったと感じている。オンラインセミナーについては、子どもの問題は親抜きでは語れない状況である。子ども達ばかりに目を向けるのではなく子どもが自立して健やかに育ってもらうために親も一緒になってテーマを考えながら受講してもらいたい。講義内容は子どもと遊びを一番のポイントにしている。子どもは遊びによって学ぶ。特に自然から学ぶため、子どもと自然など、子どもと遊びは大きな関わりを持っているのでそのテーマに絞り込んでお願いする予定。100人呼びかけており集まるかわからないが、20人でも30人でも集まれば次につながると考えている。

委員 : コロナの関係で大変なことになっていると思うが、他に事業で影響を受けたことはあったか？

団体 : 相当影響は受けていると感じている。毎月の小金北小学校での冒険山開放活動で、子ども達が非常に集まりにくくなっている。親がコロナのことなどでブレーキがかかると子どもはそれを悟って遊びに来ることが難しくなってくる。親の理解がますます必要になってきている。子どもが遊びに出やすい環境を我々で考えていかないといけない。そこが一番の悩みである。

(10)

事業名 : 松戸市内廃棄食糧再利用事業

団体名 : おからを食べよう会

- 委員：おからは私も大好きだが、みなさんは豆腐屋なのか？
- 団体：豆腐屋ではないが実家近くに国産の豆腐屋があり、我々の母の行きつけで店主と仲良くしている。豆腐や大豆製品を生産するにあたり、生産量に応じておからなどが出来てしまう。重さで決まっているわけではないが、90リットルのバケツ1個分などが毎週廃棄されている。買い叩かれているという現状がある。
- 委員：食糧費の食材費が1,300円と計上されているが、おからレシピを作るとしたらそんなに費用はかからないのではないかと少し思う。そして参加費が1,000円とのことだがその兼ね合いはどう考えているか。
- 団体：例ではチジミやいなりずし、お味噌汁で挙げているが、かかってくる費用というのは食糧費、参加費、講師費とあるが、食材費1,300円は食材だけではなく、和・洋・中の一日を通したカリキュラムを組んであげるなど、食材費プラスしてでてくる費用なども含めて1,300円としている。
- 委員：人件費は含まれておらず、材料費として1,300円として伺ったが、わかった。
- 会長：対象の食材は、家庭の冷蔵庫から出るものではなくて、販売店、生産者から出るものを対象としているのか？
- 団体：対象を限定はしていない。市も食品ロス削減に取り組んでいると思うが、市とは違うアプローチで事業者をターゲットにスタートにして、そういう食品も美味しく食べられることを講習会での体験を通して、消費者にも自分達が出す食品ロスも認知してもらおうと考えている。
- 会長：講習会で取り上げる廃棄されやすい食材は例えば何を考えているか。
- 団体：第一におからのほか、形の悪い野菜など事業者が低価格で捌かざるを得ない、消費の少ない廃棄されやすい食材を念頭に考えている。
- 会長：対象とされるものが何になるのか、初年度だから限定的に始めても構わないと考えているが、大事なのは参加する人がそうだね、と腑に落ちる形にうまく持っていけるようにした方がいいと思い、確認した。
- 委員：目標での「講習に携わった事業所」とは廃棄されそうな食品を提供してくれた事業者もしくは団体が購入した事業者ととらえていいのか？また、20%減はどういうところか？
- 団体：市内の全店舗事業者に聞き込みは考えていない。講習に招いた事業者を分母としてまた、その事業者に講習を通してどうだったかを考えてほしいと思っている。
- 委員：プレ講習会について、構成員がスケジュールに記載されているがこれは会員か？予行練習ということか？また外部講師はどんな方を想定しているか？

- 団体：予行練習である。栄養士など民間で食品ロスについて活動している方何人かは決定している。また活動を通して募集し、講師をやってもらう予定。
- 委員：収入で参加料は子どもであっても1,000円もらうということか？
- 団体：そのとおりである。親子で参加すれば2,000円を想定している。
- 委員：私のイメージだと、家庭における食品廃棄物となると賞味期限間近とか、消費期限の切れたもののイメージしかない。おから自体は安く買えるものなので、有効に使おうとすることは家庭でもできるが、廃棄物を有効に使おうということに関して、廃棄物を家庭で使用することはできないのではないかと。一般の食堂などで廃棄物を有効に使ってくださいという活動はわかるが、各家庭で有効に使うことはできなくて、今回の活動では家庭への影響はしないのではないかとと思うがどうか？
- 団体：本来飲食店でのロスが最も効果が高いと思うが、各家庭でそういう食材を取り扱う経験やこういう食材に目を向けないことによってこういうことが起こるだろう、などそれを子どもに教育することで、ほかの食材について食品ロスの削減などの意識が芽生える活動だと思っている。

(11)

事業名：「おひとりさま安心生活相談」事業

団体名：特定非営利活動法人 おひとりさま安心コンシェルジュ

- 委員：この活動は自分がおひとりさまになる可能性を考えて、あらかじめ相談を受け付けるという展開について現在または将来考えているか教えてほしい。いまの状態だと、施設職員やケアマネを通すものを感じた。
- 団体：ケアマネや施設に周知活動を行い、お困りの方がいれば相談してほしいと伝える形にしているが、相談会で息子さんや娘さん、ご自身が来ていただければ包括的に対応していく考えである。
- 委員：みなさん税理士、司法書士、ケアマネ、社会保険労務士さんで専門職に就かれて活動されているが、相談にしてもどこまでが無料なのか。すべての活動がみなさんの仕事に結びついていると思うがその線引きはどうしているか。
- 団体：相談については事業のため無料となってくるが、身元保証など専門的なところについては、報酬をいただいているところになるため、費用の相談をさせてもらいたいと思う。
- 委員：ということは最初の相談は無料だが、具体的にこういうことが必要になったら有料の相談になると考えてよいか。
- 団体：そう考えてもらえれば安心感にもつながると思う。
- 委員：窓口で相談を受けて、確定申告をしなければならぬなどになったら、本

業にすぐに結びつくわけだが、そうなるとこの相談会はただの相談会では収まらないところがとても難しいと感じる。事業そのものが本業のアピールにどうしてもつながってしまう、士業の方々がどういう風に線引きをするのか。悩ましいと思った。

団体：ケアマネから、こういった事業もビジネスとして継続してもらわないと相談する私たちも不安である、とも言われている。こういった事業を継続的に行っていくには土台となる我々自身の収入も大切だと思っている。

また、我々がNPO法人として引き受ける事業もある。例えば成年後見。専門職がやるとなかなか損益を得られないところもNPO法人として活動することで多くの方に貢献できる活動もある。相談とするところは収入と結びつくところはある。しかし、どこに相談したらわからないという方は多くいるので、そういう意味では意義があると思っている。

会長：川崎などではこういった動きがあり、士業の方が3回までとか回数を取り決めることでトラブルを減らしている事例がある。私からの質問は、最近松戸市でも包括的相談支援の取り組みをやっていると思うがそこの関係性はどうか。当事者で相談しなくてはと思っている人はいいが、本当は相談しないとまずい人、周りが見ていてそう思われる人について、地域ケアやコーディネーターなどが介入して関係性を作って支えていくと思うが、その中の選択肢としてみなさんも存在していると思う。そういったところとの関係性を築くことについて考えを教えて欲しい。

団体：地域包括支援センターの方から個人的に相談はもらっているが、その先としては結局事業として包括が受けられない、どうしてもなり手が少ない問題がある。我々の法人は身元保証というところが特徴で、施設に入居したいというときにおいては、家族でなければできないなど、都内にもそういうことをやっている団体はあるが、なかなか手が回らないということで、包括にも我々もPRしながら協力的に1つの窓口として地域に貢献できればな、という思いで団体を設立している。

委員：士業の方が中心でとのことだが、自治体担当課ないしは社協との連携まで考えているか？

団体：社協の活動も知っているが、社協からも相談をもらっている。全体的にマンパワーが足りないところがネックと感じている。まだできたばかりの法人のためどこまでできるかわからないが、困っている高齢者の方を一人でも助けたいという思いがあるので、これからに期待してもらえれば。

委員：市や社協が取り組むという例が松戸はあまり聞いたことがないので貢献してもらいたいと思う。

(12)

事業名 : 「e スポーツで松戸くるくる、はじめのいっぽ」 事業

団体名 : 松戸 e スポーツ準備会

委員 : e スポーツは今非常にブームになりつつあると思うが、実際に教育的効果があるかどうかについては、研究者が議論を進めている最中だと思う。その辺について団体はどう考えているか？また、その有効性が示されないと、やはり学校などへの参入は難しい。

団体 : 文教的、教育的かという点、文科省より経済産業省の視点が強いと感じている。一方で、JOC、IOC、日本体育協会が新たな視点としてスポーツの意味合いで考えている。私の頭の中ではドイツのロードプラン的なものを考えている。5分間で説明できなかつたけれども官民学で生涯学習というものでやっていきたいと考えている。勉強中ではあるが今後も学習していきたい。

委員 : 本当に子どもたちにとって e スポーツは有効なものか、きちっとまずは検証するということが重要だと思う。それがなくて先走ってこうやります、と述べられても教育界は乗ってくれないと思う。

団体 : おっしゃるとおりであり、意見交換会に教育関係も入れたかったと思っていたところ。実際来年度、もっと増やしていきたいと思う。

会長 : 川崎市幸区で取り組んでいる事業がある。幸区内に e スポーツのプロ集団の会社があり、その人達が地域貢献として、e スポーツへの向き合い方や時間の使い方なども教えてくれるという取り組みがあるのでそれはそれでありだと思っている。質問だが、事業名にははじめの一步とある。これは松戸をくるくるしていくためのはじめの一步だと理解したが、提案している事業の内容が、松戸くるくるにどういう風になっていくのか、近づいていくのか建付けがよくわからない。スポーツでリーグ戦をやっていくことはわかるが事業内容がどういう風に松戸でくるくるに近づくのか道筋がよく見えないので、まだはじめたばかりだと思うがもう少し教えてほしい。

団体 : e スポーツは非常にいろんなところから組みしているため、どちらかというと親和性の高い手段、方法だと感じている。商店会を使ったが、将来的にはリーグ戦にすることで地元企業にスポンサーになってもらったり、その会社に子ども達が就職したり、障がい者の活用や e スポーツの批判が強いこともあり、非常に説明が難しい。まずは普及して、商店会で草の根的活動をし、野良スポーツとして松戸でぐるぐるして次のところでどう進めるかという取り組みをしたいと思う。

会長 : 社会的循環の意味合いが強いのかなと感じた。経済的な循環は地元商店を活性化させないと難しいなと思うが、そこら辺はその後に考えるところとも

思う。

委員：松戸くるくるについて、経済的社会的循環を確立させるということと、eスポーツを活用していくことが結びつかない。eスポーツをリーグ戦でやっていくことと社会的循環というのはどこが回るのか。課題設定と事業内容があっていないように思う。

団体：将来的には経済産業省の分野だが、例えば、ロゴとかまでまだまだいかない。まず普及ということで商店会という中で小さくやっていきたい。大きくやれば承認というかロゴを買ってください、などあると思うが、そういうところよりもその手前の地域に浸透させていくこと、松戸からずれないためにも松戸をくるくるしたい、という意味合いで、社会的循環が強い印象となっていると思う。今回ははじめの一步でそれを言ってしまうとあまりにも複雑なためまずは始まりの一步というところで、官民学でやりたいというものもある。他のゲームセンター、アミューズメントパークで実施しようという利益的な活動も考えているが、それは別事業と思っている。

委員：参加する方がいないと成り立たないと思うが、実態は把握しているか。

団体：いろんな自治会や商店会へ声をかけて、話もある。リーグ戦も2、3団体は参加してもいいよと返事はもらっているので、実際にできるのではないかと考えている。来てほしいで来てくれるわけではないので、チラシなど周知をがんばりたい。

委員：松戸くるくるさせるための一つの目的として、eスポーツを手段にしたと考えているであっているか？

団体：そのとおり。ほかの手段があるなかで、eスポーツの手段を選んだということ。

(13)

事業名：四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業

団体名：小金原みんなでわくわくする会

委員：中身を拝見すると、いわゆる各町内会が本当はちゃんと取り組むべきモデルプランニングの要素が非常に強いと感じた。過去の内容を見ると、どこの町内会でもやっている内容だと思うが、それを分析して、どうしていくのかが実は重要だと思う。そういう意味で、今後の展開の中で他の町会がやっていない、自分のところだけの特徴を教えてほしい。またその成果を他の町内会にどのように広めるか計画はあるか。

団体：基本的に町会活動と何が違うのかということだと思うが、SDGsという切り口で若い人達の興味を持ってもらおうということと、SWOTという分析手法で良い点と悪い点を落とし込んで整理して、小金原は何が良くて

伸ばしたいのか、何が悪いのかを一回整理して、そしてそれをSDGsに戻すかどうか、いままでなんとなくやっていた町内活動だったが、それだけでは年寄りの運動から抜けられないところを新たな切り口として考えていきたい。

委員：方法論としてはよくわかった。それをどのように広めていくか、周知はどう考えているか？

団体：いろいろ良い点悪い点出てきた部分を一回住民で討議して、その中でやれるものはなにか、予算が必要なものはなにか、難易度はなにか、1つ1つに対しファシリテーターを設置し、その中で実行計画を設けて個別の具体的案件に掘り下げていきたいと考えている。

委員：持続可能性という点はその通りであるし、SDGsはわかるが、やっていることは声掛け運動や防災など地域コミュニティでやっていた素晴らしい活動である。SWOTで分析して新しい活動につなげることは評価できる。SDGsにつなげることより、分析に重きを置くほうが納得できるしそれによって後継者不足についても解決につながると思うがどうか。

団体：地球環境や次世代へどう環境を保証してあげるかなど、我々が動かなければできない。そういう1つでも小さな一歩として個人個人がSDGsにより問題意識をもってわくわくしながら取り組みたい、ということ。

会長：理論理屈の分野から市民生活でこの言葉が普及し始めたということは新鮮味があると思う。町会の活動は黙っていればマンネリ化してしまうということ。それを風通し良くして、これまでやってきたものを評価しながら新しい切り口を見つけていくということをやっていることからいい意味のお色直しをして今までの活動がやっぱりいいなと気づいてもらうことが大事と思った。質問だが、小金原地域に実際に定着していくために何が重要と考えているか。

団体：定着というと、市民と話すとSDGsとは何かという話となるからやはり同じ土俵に乗るといって定着の第一歩で、そこから話すことが私もSDGsに参加しているんだと意識する最初の段階と思う。

委員：今年度の事業の評価をしての来年度と考えるが、4世代の事業の特徴とはなにか？

団体：今年度はどちらかというと勉強会だったので、もっと具体的な中身として実践活動につなげたいと思う。スローモビリティなども含めて事業内容を具体化した。

委員：スローモビリティの場合は小金原地域全体の取組と考えていたが、団体独自の取組ではないはずでは。

団体：まだ連携は取れていないが、具体的なアクションを逐次行い、今後役割を

話し合っていきたい。

(14)

事業名 : ときわだいらオープンアトリエ事業

団体名 : 特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター

委員 : とても評価している活動だが、いままでは平面的な作品ばかりだったと思う。常盤平という土地はものすごく面白い場所やアーティスティックな場所が沢山あると思う。アートを造形活動という観点から言えば演劇やドラムのパフォーマンスなど立体的で非常に幅広い活動ができると思うが将来的な構想はどうか。

団体 : この事業に限らず団体として一番力を入れようとしている部分で、まちづくりとして地域の弾力性を高めたいと考えている。その中で表現はとても大事である。いま、別にスペースを確保して街の活性化を考えている。この空間で誰かが太鼓を叩いている、誰かが歌を歌っている、そんな街になったらいいなと思い、それに向けて1年目は2次元での表現だったが、2年目は出版も含めて常盤平の街を何か自分達の手で作ったもので発表していくというところを実施して取り組みを拡大していきたい。

会長 : 事業計画書の事業の目的に記載された一文で、アートとケアのための場としてオープンアトリエが有効なのだろうという結論に辿り着きましたとあるが、有効とはどのような形で実証していくのか。関係者は感じる部分があるのだと思うが、外から見たときにそれが伝わらない。伝わらないとみなさんの取り組みが支持されない、共感されないということになってしまうので、どういう風の実証されるものさしをもっているか教えて欲しい。

団体 : 一般の参加者やもともと関わっている方などいろいろな参加者がいる。その中に数日前に刑務所から出所された方もいて、当初はアトリエに来るよりも入院するしかないのではと思う方もいるが、アトリエに来ると絵をかいたり音楽を楽しんでいて、参加者の一員として関わっており、その方がたまに奇声を発することがあるがだんだん周りが受け入れていく様子があった。最初は驚いていたが、子どもなどは一緒に絵を描いたりしている。もちろんケア専門員が周りに付くが、我々も想定外の効果でアート表現ってすごいなと実感している。それをどういう形で見える化するかが課題である。アートの何が彼らをそうしているのかは我々団体活動としても新しい分野になる。

会長 : ぜひとも共感できるようにしてほしい。奈良の事例でたんぼぼの家など、当時先駆的な取り組みがいかに社会に受け入れられるようになるか参考に取組んでほしい。

団体 : まさにこの事業を始めるときにたんぼぼの家に1日見学に行った。

- 委員：当初、地域の方々と団体でどうやってコミュニケーションを取ってやっていけるのか不安に感じていたが、自己表現というなかで、ケアがお互いに来ていくということがわかりよかったと思えた。引き続き違うプログラムが始まるが、参加者が固定化しているのかどうか教えてほしい。
- 団体：団体としても参加者の層や属性について多少不安を感じていた。ある参加者が木版画をやってみたいと話があり、この事業ではないが木版画の先生を呼んで実施したことがある。団地にポストインする中で、団地に移住したばかりの男性でこういう場所に参加したことがない方が木版画をやってみたかった、と言って参加してくれたり、それぞれ違った方が集まってきてくれることに希望を感じる。あの手この手と表現の場だけでなく学びの場など様々なことをつくることで色んな方がいる地域の1つのハブのような存在になれたらと思う。
- 委員：リピーターがいると思うが、素晴らしい活動だと思うので色んな方にこの情報を流したほうがいいと思う。広報はどうやって知らせるのか。チラシの配布か。
- 団体：常盤平に住んでいる方をターゲットにしているので団地への定期的なポストインと、SNSを見てきた方と、実際の印刷物を見てきた方大体2種類。あとはサポートセンターや市民センターで見ましたという方。意外に7割くらいはどこかで印刷物を見たという方がいて、まだまだ紙面の効果を感じる。
- 委員：色んな作品に取り組んでいるということはいずれ集めていままでの成果を発表する場を設ける予定はあるのか。
- 団体：今年度最後にご希望された方の作品展示を計画しているほか、この事業に限らず半永久的に地域の方がつくる作品を実際に見られる場も作りたいと考えている。
- 委員：予算についてオープンアトリエの絵の具など消耗品は、この量で果たして足りるのか。また、表現力の効果はすごいと思っている。表現することに目覚めた人に対するリード支援がこれからの課題である。この表現の場を伸ばして、参加された方の心の独立などにもっと結び付けてほしい。
- 団体：材料費は自己負担の部分もあるが、やっているうちにやりたいことができてしまい予算付けが難しい。とりあえずこれだけ買っておこうと設定したものである。

(15)

事業名：[生きづらさ・ひきこもり] 一人ひとりに合わせてつながりが広がる事業
団体名：生きづらわーほりプロジェクト

- 会 長：参加人数の内訳はいままで参加した方が混ざった数値なのか、あるいは新規の方が増える見込みなのか割合について教えてほしい。
- 団 体：新規で増えた方もいるし継続して来られる方もいて、これまでやってきた活動の実績や経験上からの見込みである。
- 会 長：本来は古参の方が卒業して、新規の方が団体を頼って拠り所にする方が大切だと思うがそれはまだ始まってみないとわからないといったところか。
- 団 体：そのとおりである。新規の方に来てもらいたいことは重要だと認識しているが、まだ難しい。
- 委 員：県内の他の地域でもこの取り組みを別の助成金で目にしたことがあるが、県内での取り組みを教えてほしい。また、必ずこの事業が就労に結びつくことが目標だとは思わないが、これまでに就労につながった方がいたら事例を教えてほしい。
- 団 体：色々な地域でやっている松戸に限らない活動で、「ヒルトーク」という中々発言できない方もオンラインを使ってラジオ感覚で参加できるものや、「ゆ〜る links」という自分が場づくりの企画運営側になるもの、お仕事懇談会ではキャリアコンサルタントと連携するものや他の市民活動団体へのボランティアの橋渡しをしている。2点目については、我々のサポートで就労したというわけではないが、就労移行支援事業所A型B型につながったという話を参加者同士で話し合う中でつながった方はいる。実際にアルバイトを始められた方もいる。
- 委 員：困っている方に切り込む際に、こんなチャンネルあるよといった広報はどんな形でやっているのか。またこれまでの講座などへの参加された方の声があれば教えてほしい。感想でもいいし、あとで連絡をもらった話などあれば。
- 団 体：松戸市内ではひきこもり応援ネットという引きこもり関連支援団体の集まりの場があるため、そこで情報交換や我々の活動をお伝えして広めていたり、家族会や他の地域でのひきこもり当事者会などそういったところでお伝えしながら口コミで市内ではない方もいるが情報知ってきました、などがある。たまにHPやSNS見てきました、という方もいる。SNSだけでなく口コミの重要性を感じる。それからひきこもり当事者の声は、「ゆ〜る links」では実際に場づくりを企画運営してみてどうですかと聞いてそれをまた活かしてという形でやっている。自分も元引きこもり当事者としてはやってくれてよかったと思う。存在してくれてその場があることが非常にありがたいと聞く。最近では自分の足を使って色々なところへ宣伝活動をしているが、場所があるということが非常にありがたいということが自分達にとっても励みになっていると思う。

- 委員：コロナの影響でオンラインがかなり普及している。引きこもりの方からすればある意味助かっている状況だと思う。オンラインでつながっている、引きこもっていても就労できるという感覚もあると思うが、今までの活動でオンラインの影響はよかったか、悪かったか？
- 団体：オンラインじゃないと参加できないという方もいるので、これからもオンラインを活用していく必要があると感じている。
- 委員：風の家「はう」という新しい活動は、喫茶店の2階を貸し切りにして誰でも来られるイメージか？ だいたい何人か？
- 団体：そのとおり。10人は入れないので8人程度だと思う。
- 委員：これまではやっていたのか。
- 団体：今年から始めていて、来年度から本格的に実施する。
- 委員：風の家は喫茶店の2階で実施するという事なので、ぜひ下の喫茶店と連携してホール体験などもできるようにしてもらえたらと思う。磯子にあるにこまる食堂という活動がだいぶ成功して実際に店を出したところまでである。がんばってほしい。

(16)

事業名：みんなで育て、みんなで作る 沿道での食べられる景観事業

団体名：エディブルウェイプロジェクトチーム

- 委員：この活動がどうして続いてこられたのか秘訣を教えてください。
- 団体：立ち上げ時から継続している人間は代表1名のみだが、しつこく続けてきた。続けるためには楽しんでやるのが大事だと考えている。副代表など地域住民の方が運営メンバーとして入ってくれた時に、まずは自分達が楽しめるようにしようと打ち合わせで決めた。そうじゃないと続けられないよねと共有し、自分たちがまずは楽しめること、そしてその楽しみを共有できるということを意識している。
- 委員：楽しむことが重要とのことだが、全国の手本にもなると思うのでがんばってほしい。
- 委員：団体概要調書に書いてある、生協の機関紙「生活と自治」10月号にみなさんの活動が4ページも掲載されていてとても感動した。全国の組合員に配布されているので、全国から視察が来てくれるのではないかと思う。
- 団体：編集部にも同じようなことをやってみたいという共感の声が寄せられていると聞いている。
- 委員：どんな野菜やハーブを植えているのかを知りたい。また、住んでいる方々の参加が中心か？ 外部からボランティアなど参加は可能か、また参加が可能であればどんな方が参加しているか？

- 団体：見ても楽しめる野菜を選んでおり、ちょっと変わった形のピーマンなどを育てている。今季は畑を持っている方から種を分けていただいて、来年度に向けて準備しており、会員には持っている種を持参してもらっている。ハーブの挿し穂を沢山持ってきた方がいてヨモギや麦を実験的に育てているほか、いまは水菜、春菊など冬野菜を育てている。基本的には地図に載っているところの住民に参加いただいているが、外部については町会の方の友人で地図から外れている方も植物好きな方で参加いただいている。色々な植物の挿し木を持ってきてくれている。今年度のステップアップ助成を実施して少し活動域が広がっている。また、練馬区や千葉ニュータウンエリアのいくつかの団体で我々の活動を聞いてやってみようとしている話を聞く。松戸市内の団体や普段の活動に来てくれれば色々お伝えしたいと思っている。
- 委員：幼児教育の分野でフレーベルという幼稚園の創始者が幼稚園の庭に季節によって実のなる木や食べられる草花、匂いのする植物を植えることが子どもにとって大変有効であると述べられている。まさにこの活動は子ども達の育成にも役に立つ活動だと前回から注目している。ぜひどんな種類のものをどんなふうにといったことも含めて本にまとめる機会を作ってほしい。きちっとエビデンスを出していくと拡がりが出るものなので、一冊執筆することに期待したい。
- 委員：参加者は沿道の方ということだが、アパートやマンションの方で興味を持った方が参加できる可能性はあるか。
- 団体：マンションに住まわれている方で興味を持つ方はいる。今年から実験的に沿道に置いているプランターより小型のプランターでベランダなり、家の中で育てていただくという活動を始めた。併せてワークショップに参加いただいたり協力いただいたりしている。ただ沿道にないため目に見えないこともあるが、SNSでこういう活動をしている、や、これだけ苗が育ちました、など発信してもらうことをお願いしたりしている。
- 委員：自分が参加していると沿道を歩いていて同じメンバーになるだけでうれしいのではないかと思う。
- 団体：そう思う。それも成果だと感じる。

(17)

事業名：不登校の子どもたちの居場所づくり事業

団体名：EdFuture

委員：普段は公立学校の先生方が実施されているとのことで、がんばっていただきたい。市の教育委員会でも支援教室をやっていると思うし、フリースクールやJワールドなどいろんな団体が取り組んでいるがその辺の連携や情報共

- 有について教えてほしい。
- 団体：連携について悩んでいるところだが、市のスクールソーシャルワーカーと協働しており、活動を伝えて、SSWから学校長に活動を伝えてもらっている。また、民生委員にも連絡し、チラシを必要な方につなげてもらえるようお願いしている。
- 委員：実際に通った方は何人来たかというより来なくなってどういうところに進んだかというのをどうカウントするか？社会的自立の指標として、なにを考えているか。
- 団体：団体としても子ども達の社会的自立を目指してもらいたいと考えている。指標として、自尊感情尺度をどれだけ気持ちが高められたかで社会的自立を見ていきたい。
- 委員：自尊感情尺度での評価だが、その子がどう変化したのかを測るものだと思うが、本人や家族にも開示するということか。どのように評価物を扱うのか知りたい。
- 団体：無記名で調査票を徴収したい。保護者の同意が必要なものであるため、事業の評価として使う旨を理解してもらって活用する。
- 委員：団体の名前の由来を教えてほしい。
- 団体：エデュケーションとフューチャーのかけ言葉で教育でいい未来になると信じている。
- 会長：子ども達のオンラインの端末は何を想定しているか？
- 団体：スマホでも家庭にある端末を考えている。
- 会長：自尊尺度を測ったことを踏まえて、子どもひとりひとりに対してどう支援していくか、どんな語り掛けをするのか将来的に考えているか教えてほしい。
- 団体：自尊感情が低い子に対し支援が必要と考えるが、どうやって自己肯定感を高められるか私自身勉強している身であり高められるための方策はこれから一緒に考えていきたい。
- 会長：事業開始前に、その自尊感情尺度の評価点数をどう活かすかをしないと、テストして、50点でした、で終わっては意味がない。ぜひともそこは、よく向き合ってもらいたい。
- 委員：ちょっと気になったのは、ただ居場所を作るだけでは子ども達のいわゆる自尊感情を育てるのは非常に難しく、ソーシャルスキルトレーニングというのを、盛んに遊びの中で展開することというのを実践している先生がいる。実践例がたくさんあり、そこには不登校の子ども達であるとか登校拒否の子ども達とか事例が載っている。ぜひそのあたりのところをしっかりと学習して、その先を見据えたいいわゆる活動内容、プログラムを検討してほしい。

私からの提案である。

(18)

事業名 : 「食」と「イベント」による体験型子ども食堂事業

団体名 : スープキッチンにじいろ

- 委員 : 体験型が新しいと思う。子ども食堂の多くは提供する一方通行に終わる。体験学習が働いていることが素晴らしいと思う。しかし逆に慎重に行う必要もある。なんのためになるか、をしっかりと検討することが非常に重要である。ぜひがんばってほしい。
- 会長 : 子ども食堂の運営は月1回か2回実施していて、イベントもやるということだが、ごはんを食べながらその後イベントをやるというものか？体験型が売りということだがどのようにやるのか？
- 団体 : オープンしてまだ日がたっていないこともあり、当日急遽コロナの影響でお弁当にしてその間にイベントをした経緯がある。その後も9月はお弁当の配布と防災について実施した。子ども達で話し合ってもらって、答えを考えてもらう内容だった。
- 会長 : それは今やっている話だと思う。来年の話を知りたい。その場で食事をつくるのか？
- 団体 : 今話し合っているところだが、時間を延長して、子ども達に手伝ってもらう時間をつくるということ。例えば食べ終わった子はフリマに参加してもらい、そういう感じ。
- 会長 : ほかの子ども食堂だと夕方など限られた時間でちゃちゃっとやるものが多いが、みなさんの体験型が活きるには土日など長時間でやるものにも考えられるかどうか。
- 団体 : コンセプトとしては土日は親がいるため、どうしても本当にお腹が空いたというときに食事を提供したい。毎週やりたいが構成員はみな小さい子持ちのため、とても遅い時間までできない。ローテーションを組んでやっている。子ども達にイベントとしてかかわっていくのは長時間のイベントとして組むのは夏休みに考えている。普段は片付けなどお手伝いもしてもらっている状況。
- 会長 : 高校生と大学生のボランティアはどこにお願いするのか？
- 団体 : 自分たちの子どもたちなどが小中学生でその友達など知り合いで広めたいと思う。中学校の先生もボランティアを推奨している。高校にも介護を目指す学生に話しに行こうと思っている。
- 委員 : 前回の活動実績では大人の数と子どもの数で、大人の数が多いが、学生が大人に入っているのか？それとも親子が多いのか？

- 団体：親子で参加が多い。ネグレクトの話もキャッチしやすいため、学校や行政機関にもつないだりする。または親子で参加した人が友達の子どもも連れてくることもある。
- 委員：将来の方向性についてビジョンなど将来像があれば教えてほしい。
- 団体：妄想でもよければ。NPO 法人化して、たくさんコミュニティをつくる活動をしたい。例えば長時間子どもが集える場、お母さんがカフェを運営し子どもが遊びに来る、書庫を置いて本を読んだりできる居場所づくりがしたいなどと思う。
- 会長：収入のところで団体拠出金が6万2千円ある。コープみらい地域クラブの活動費補助が入っているのか。
- 団体：団体が今年度できたばかりのためまだもらっていない。
- 委員：活動場所が高塚新田集会所ということで、他の子ども食堂団体も活動していると思うが、子ども、親子がいろいろなところにつながるのは良いことだと思う。ほかの団体との連携や行事もできると思うがその辺は考えているか。
- 団体：もちろん検討している。他の子ども食堂がやっているのも知っているが、若干コンセプトが違い、土日など親のいる時間はやらない、というのが私たちにはあるのでそのあたりがうまくいけば検討したいと思う。
- 委員：食材の提携支援をもらった経験はあるか？
- 団体：お米だけある。

質疑以上

6 閉会